2015年度の主な活動

2015年12月から2016年2月までの
男女共同参画推進室の主な活動を紹介する。

2015
December
12

［19日］
女子学生ロボットプログラミングPBL
ーロボットプログラミング講習会

女性教員による、女子学生のものづくり力とリーダーシップ養成PBLの導入講習会「LEGO MINDSTORM EV3で面白ペットを創ろう!」が開催された。

2016
January
1

［15日］
学生による女性卒業生ロールモデル
インタビュー記録記事のウェブ公開

10月に学生サークル「FM放送技術研究会（FM芝屋）」がインタビューし、記事化した、卒業生・通信工学科宮田純子助教へのロールでモデルインタビュー記事をウェブサイトに公開した。

February
2

［15日］
女子学生就職セミナー

3名の女性卒業生をパネリストに迎え、女子学生が進路選択やキャリア形成について考えを深めるためのセミナーを開催した。19名の女子学生が熱心に参加した。

［18日］
科学英語プレゼンテーションセミナー

女性研究者の研究力強化の取り組みとして、英語のプレゼンテーションスキルを磨くセミナーを開催した。33名の教職員、学生が参加した。

芝浦工業大学が平成27年度「東京都女性活躍推進大賞」を受賞しました

「東京都女性活躍推進大賞」は、全ての女性が意欲と能力に応じて多様な生き方が選択できる社会の実現に向け、女性の活躍推進の気運を醸成するため、2014年度に「東京都女性活躍推進大賞」を創設した。2回目となる今年度は、芝浦工業大学が、産業分野、医療・福祉分野、地域分野の3団体および1個人とともに、教育分野の大賞に選出された。私立の工業大学として唯一「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択されており、常勤教員の女性比率を2年間で8%から12%に上昇させるなど、理事長・学長の強いリーダーシップで積極的に女性活躍を推進していることが評価された。これを受け、1月27日に東京ウィメンズプラザホール（渋谷区）で行われた贈呈式に村上雅人学長が出席し、舛添要一東京都知事より表彰状の贈呈を受けた。その後、大賞受賞代表5名によるパネルディスカッションが行われ、村上学長が「学問にも、イノベーションにも多様性（ダイバーシティ）が不可欠。異なるものと接し対する中に学びがあり、新しいものが生まれる。男女共同参画は、ダイーバーシティの重要な柱の1つ」という、本学の男女共同参画の考え方と、今後さらに女性教員の積極的な採用によって学内の多様性を高め、また、ライフイベント中の女性研究者の両立支援など環境整備づくりに取り組んでいくことなどを紹介した。

編集後記

3月で、3か年取り組んできた文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」（2013～15年度）が終了し、補助事業への取組が中心であった男女共同参画推進室の活動は大きな転換点を迎えます。女性の増員、意識づくり、ワークライフバランス支援、女性コミュニティの形成、情報発信、学生の活動の支援等々、補助事業に取組む中で形づくられた基盤を活かし、芝浦工業大学独自の男女共同参画推進活動へと転じていきます。

芝浦工業大学男女共同参画推進室入試・広報WG責任者　上岡 英史

芝浦工業大学男女共同参画推進室ニュースレター　第4号
発行者／芝浦工業大学男女共同参画推進室　〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
TEL. 048-720-6440　E-mail: desk-gequality@ow.shibaura-it.ac.jp　http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（一般型）　Gender Equality Promotion Office, SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY 2016.3

NEWSLETTER

芝浦工業大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

芝浦工業大学 男女共同参画推進室　発行／芝浦工業大学男女共同参画推進室

Vol.2 No.2
［第4号］

2015男女共同参画推進シンポジウム開催報告

芝浦工業大学　2015年度男女共同参画推進国際シンポジウム「世界の舞台で活躍する女性研究者の育成強化に向けて」を開催しました

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」（2013～15年度）の成果を学内外に示すとともに基調講演の世界水準のメッセージと重ね合わせ、理工系スーパーグローバル大学としての、今後の男女共同参画推進、女性研究者・技術者の育成への取り組みかたを明らかにするために、芝浦工業大学2015年度男女共同参画推進国際シンポジウムを開催した。学内外より121名が参加した。

シンポジウムのようす

五十嵐久也理事長

五十嵐久也理事長の主催者挨拶でシンポジウムの幕を開けた。挨拶では、来賓、基調講演者への謝意とシンポジウム開催の意義、そしてグローバル水準の大学として、男女共同参画を継続的に推進していく意が表された。

●

来賓ご挨拶で、猪口邦子参議院議員は、女性の参画と活躍を進めなければならない理由を、社会の持続的発展とイノベーションを可能にする“４つのD”—Democracy, Disarmamen, Diversity, Digitalizatio—を挙げて述べられた。

武川恵子内閣府男女共同参画局長は、科学技術における男女共同参画推進を重点分野の１つとしている男女共同参画行政の立場から、川上伸昭文部科学省科学技術・学術政策局長は、女性の参入活躍を理工学・科学技術の質の高度化に不可欠とする科学技術人材政策の立場から、シンポジウムへの期待を述べられた。

●

次いでいよいよ、モニク モロー CTOによる基調講演“You are the Internet of Women-Be Fearless! ”が行われた。まず、多様な立場・経験をもつメンバーで構成される組織こそ新しいものを生み出し得ることが具体例に即して説明された。次いで、しくみ・

（中面へ続く）

猪口邦子元内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画担当）

武川恵子内閣府男女共同参画局長

川上伸昭文部科学省科学技術・学術政策局長

國井秀子男女共同参画推進室長

判断基準等組織の諸秩序が、たとえば日本人・健常・男性といった主流のカテゴリーを前提に成り立っていると、そこから外れる構成員は能力の開発発揮機会を逸しがちになり、それらの人々を活かせないことになる、組織として、そうした認識され難い次元のバイアスを検証し解消してく取組が求められる、と指摘された。そして、Supercritical Human Elevated [SHE] Economyの提案を以て講演を締めくくった。

●

続いて「芝浦工業大学男女共同参画推進成果報告」が行われた。はじめに村上雅人学長が「芝浦工業大学の男女共同参画」として、来賓挨拶、基調講演を受け、男女共同参画推進への大学の取組の流れの中に、女性研究者研究活動支援事業への取組を位置づけ、そして、理工系のスーパーグローバル大学として、男女共同参画推進のモデル校をめざす意気込みを述べられた。次いで、國井男女共同参画推進室長が、「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の成果を報告し、今後への発展的継承を展望した。2年間余で女性教員比率の数値目標を達し得た要因として、早期に組織職の認識共有がはかられたこと強調した。

●

最後に、補助事業による研究支援員配置を受けている3名の女性准教授が、ライフイベントによって時間的に制約される研究活動の遂行と成果産生に研究支援員の配置をどのように活かしてきたかを、具体的分析的に事例報告された。成果報告全体に対し、モニク モロー CTOより、コメントと「創立100周年2027年に女性教員比率25%にするという高い数値目標の達成を共に見届けたい」とエールを頂いた。

米田隆志副学長が「2年余で学内の雰囲気が変わった、補助事業後終了後も手を緩めずに進めていきたい」と締めくくり、会を閉じた。

参加者アンケートの結果はたいへん好評であった。

基調講演　モニク モロー CTO

村上嘉代子工学部准教授

平田貞代大学院マネジメント研究科准教授

菅谷みどり工学部准教授

男女共同参画研究支援員として活動して

女性研究者研究活動支援事業（一般型）の重要な活動の1つとして、妊娠・出産・育児・介看護等のライフベントによって研究時間が制約される女性研究者の研究時間を確保し、両立と研究の水準の維持をはかるために、希望する該当女性研究者に「男女共同参画研究支援員」として大学院生を配置してきた。男女共同参画推進研究支援員にとっても、ロールモデルに接し、自身のキャリアや将来のワーク・ライフ・バランス、また、男女共同参画推進について具体的に考える機会となるよう、日常の支援業務に併せて、1～2か月に1回「男女共同参画研究支援員研修」を実施してきた。

男女共同参画推進研修支援員の配置（2013～15年度）

	2013年度	2014年度	2015年度
配置を受けた女性研究者数（%）	3名（11.5%）	6名（19.3%）	6名（16.2%）※
配置した男女共同参画研究支援員数	5名（男2、女3）	11名（男6、女5）	14名（男12、女2）

※ライフイベント中の女性研究者の配偶者である男性研究者1名を含む

各年度最後の研修で、1年間の男女共同参画研究支援員としての活動の振り返りを行ってきた。
次のような感想が述べられている。

Vioce 1
女性の働き方、子育てなど各ライフステージで生じる問題を自分のこととして考えるようになった。
（2014年度、M1女子）

Vioce 2
制約される時間をカバーできたという実感がある。
（2015年度、M1男子）

Vioce 3
学部以来女性がとても少ない分野で勉強してきた。女性研究者と身近に交流する初めての機会だった。
（2015年度、M2女子）

Vioce 4
これまで男女共同参画に関心をもつこともなかったが、支援を通じて女性が育児をしながら働くリアルを知った。（2015年度、M1男子）

Vioce 5
支援を通して、出産、育児や介護を抱えても、うまく時間を工面しワーク・ライフ・バランスを組み立てることは可能なのだとわかった。そのためにも、周りのサポートや育休・時短勤務等が当然のこととして受け入れられる環境をつくることが必要だと感じた。
（2014年度、M1女子）

Vioce 6
研究支援員研修の進行を担当する機会があり、説明ができるよう事前に自分で調べたり、男女共同参画推進室の教員と事前ディスカッションをして準備をしたのが貴重な経験だった。
（2015年度、M1男子）

Vioce 7
異分野の研究を支援して視野が広がった。（2015年度、M2女子）

Vioce 8
共働きの両親が祖母の入院や介護でてんやわんやをしている姿をみて来た。ライフイベント時に支援を受けられる制度が必要だと実感する。
（2015年度、M1男子）

Vioce 9
就職活動で、企業のワークライフバランス面、女性社員がどのように働いているか、出産等の節目を迎えた後も仕事復帰が可能であるかを意識するようになった。（2014年度、M1女子 2015年度、M2男子）

Vioce 10
まったく関心のなかった男女共同参画について知るきっかけになった。
（2015年度、M1男子）

Vioce 11
これまで、女性だからしょうがないと決め込んでいたが、実際に仕事と結婚、子育てを両立されている先生を支援する中で、どちらも諦める必要はないのだと考えが変わった。自分も結婚、出産で一生懸命学んできたことを諦めたくないという思いが強くなった。（2014年度、M1女子）